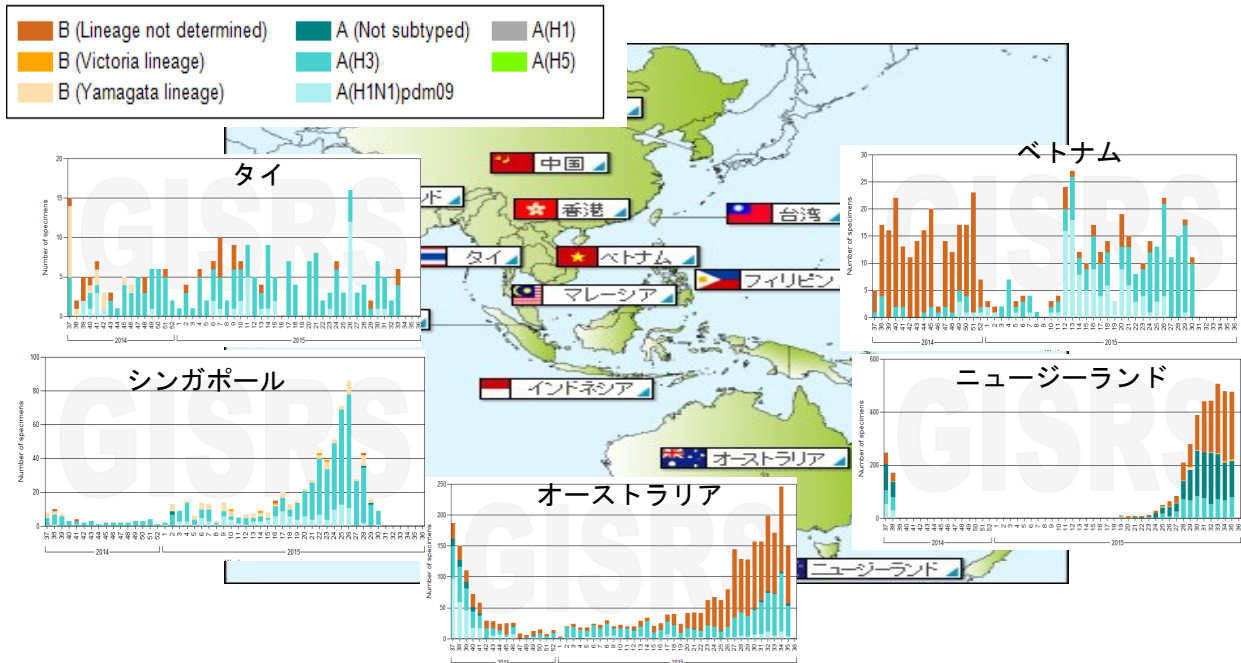




## 今シーズンのインフルエンザ流行に備えて

感染制御部



### 今シーズンの流行予想

12月から、インフルエンザのシーズンがやってきます。上図は北半球が夏の間冬を迎える南半球および赤道近くでのインフルエンザの流行状況です。この傾向が北半球へ広がってくるため、これからのインフルエンザシーズンの予測に用いられます。今年の南半球の流行状況を観察すると、オーストラリアとニュージーランドではB型が多く出ていますが、赤道に近い国では、A型（H3N2：香港型）が多くなっています。2009年に流行ったA型（H1N1）は少ないようです。日本においてもこの傾向が引き続くのであれば、昨シーズンと同様にA香港型とシーズンの後半にはB型が流行すると考えられます。現在南半球を含めて、例年よりも流行が大きいという報告はないため、規模的にも例年と同様の流行と考えられます。

日本のワクチン株も現在の南半球の流行状況をみて決められます。阪大病院でのワクチンの接種は11月初旬ころに職員のみなさんに接種予定です。

### リレンザとイナビル、乳製剤過敏症に注意

日本で使用できる抗インフルエンザ薬には、①タミフル、②リレンザ、③イナビル、④ラピアクタ、⑤ファビピラビル、⑥アマンタジンの6種類があります。タミフルによる異常行動の報告以来、リレンザとイナビルの2つの吸入薬の使用頻度が増え、特に近年は、1回の吸入投与で終了するイナビルの使用頻度が多くなっています。

吸入薬であるリレンザとイナビルに関して医薬品総合評価機構（PMDA）は新たな注意を7月に出しました。大変重要な注意事項ですので、紹介いたします。

リレンザ、イナビル共通で、添付文書に次のような文言が加わりました。乳製品に過敏症のある患者には、これらの吸入薬は避けるように注意が必要です。

- ・慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）  
乳製品に対して過敏症の既往歴のある患者

#### ・重要な基本的注意

本剤は、夾雑物として乳蛋白を含む乳糖水和物を使用しており、乳製品に対して過敏症の既往歴のある患者に投与した際にアナフィラキシーがあらわれたとの報告があるので、投与に際しては十分に注意すること



**リレンザ、イナビルの吸入治療薬は  
乳製品敏感症の患者は注意！**